

議 事 録

会 議 名	平成24年度 第2回寒川町生涯学習推進会議		
日 時	平成25年3月26日（火）午後1時00分～3時00分	開催形態	公 開
場 所	寒川町民センター 小学習室		
出 席 者	委 員：三澤委員（会長）、菊地原委員、小倉委員、宮崎委員、大江委員 恵羅委員、中川委員、鳥山委員、小林委員 （欠席者：菊川委員（副会長）、岸本委員） 事務局：大澤教育長、田中生涯学習課長、中野生涯学習課主査、 山口生涯学習課主任主事、後藤生涯学習課主事 傍聴者：なし		
議 題	下記議事欄のとおり		
議 事	<p>1. 開会 田中生涯学習課長</p> <p>2. 委嘱状交付 選出団体等からの委員変更届に伴う委嘱 中川委員（寒川町議会）</p> <p>3. あいさつ 三澤会長 大澤教育長 各委員自己紹介及び職員紹介</p> <p>議事録承認委員：三澤会長、菊地原委員</p> <p>4. 報告事項 （1）平成25年度 機構改革にともなう変更点等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より資料1について説明。 生涯学習課生涯学習担当は町長部局の町民部協働文化推進課文化担当と教育委員会の教育総務課社会教育担当へ変更。 青少年担当は町長部局の健康子ども部子ども青少年課青少年育成担当へ。 <p>（委 員）生涯学習の拠点施設である公民館は教育委員会に残り、生涯学習の担当が町長部局の協働文化推進課へ移ることで、これまでは教育委員会にまとまっていたものが、今後は部局の枠を超えての連携が大事になってくると感じた。</p> <p>5. 報告事項 （1）寒川 学びプラン 平成25年度事業計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局から資料2について説明。 当プランは平成18年度から平成32年度までの15年計画。第1期が平成18年から22年度、第2期は23年度からで現在2年目となる。 平成27年度に「寒川学びプラン」と「寒川町教育振興基本計画」の一本化を想定していたが、機構改革に伴い、教育委員会でも教育振興基本計画の変更が必要となるため、今後再検討させていただく見込みであるが、現在のところの標記はそのままとしている。 		

(委 員) 廃止になった事業は連番151, 160の消防本部予防課の2件だけでよろしいか。

(事務局) はい。

(委 員) 連番178の人権教育講演会についての成果・課題に平日午前開催のため参加者が伸び悩んだとあるが、私もこの講演内容に興味があったが、平日午前のため参加できなかった。参加しやすい時間帯について検討したいとあるので、ぜひお願いしたい。

(事務局) 子育て世代が参加しやすい事業の開催日については平日、土日、午前、午後と参加しやすい時間帯について悩むところである。

(委 員) 確かに土日だと家族でかけるなどの用事もあるかもしれないが、いろいろな曜日、時間に設定して動向を見てはどうか。

(事務局) 今回の人権教育講演会は主な対象を家庭の母親としたため、平日に設定をしたが、他にも文教大学出張講座などは土曜日午前中を設定して、男性の参加もある。参加を増やす開催日設定については悩ましい課題である。

(委 員) 今回のこの人権教育講演会はどのような参加者の傾向があったのか。

(事務局) 女性が多く、また小学校教職員の参加もあった。

(委 員) 子育て世代の参加が多かったか？

(事務局) とくに特定の世代が目立つということはない。

(委 員) これだけ項目がたくさんあると全体を細かく目を通すのが難しい。なお、連番94にある総合型地域スポーツクラブとはどこを指しているのか。

(事務局) 町内に総合型スポーツクラブとなるNPO法人が2団体ある。

(委 員) 町としてはどのような支援をしているのか。広報をしてあげたということだけなのか。事業内容の具体がわかりにくい。連番97では成果・課題に見直しをする必要があるとしているのに、25年度事業は24年度と同じ事が並んでいる。このスポーツの項目は「特になし」などもあり、総括がないのは不満を感じる。スポーツ施設は寒川町は充実している方なのか。

(事務局) 相模川沿いにスポーツ公園が3箇所、野球場がある公園もある。岡田に青少年広場、総合体育館などがある。トラックが公式の寸法になっていなかったり、河川区域なので固定したものが建てられないといった点がある。

(委 員) 町民のスポーツに対する意識、満足度などのアンケートのデータはあるか。そのようなことを踏まえて事業は行っているのか。このページを見てみると事業意図が見えてこない。

(事務局) 先ほどもご指摘いただいたように生涯学習の内容も幅広く、絞りきれずに担当課も多課に渡るため、報告の方法について内容をわかりやすく充実させるように各課にお願いしていきたい。

(委 員) 連番34のメンタルフレンドについて、どのような学生で30回という回数なのか。最近、不登校の学生が多いと思うが、どのようにメンタルフレンドがそのような学生と接点を持つのか。学校と連携をしているのか。

(事務局) 担当課ではないため具体的な説明はできないが、不登校の子ども達が通う相談指導教室に大学生によるメンタルフレンドが活動していると聞いている。

(委員) 連番6について、くらしの便利ガイドが24年度に発行され、今後1年おきに製本版を作成するようだが、内容やデザインの見やすさなど住民から意見の聴取は行わないのか。

(事務局) これまでもくらしの便利ガイドは発行されていたが、主に転入者用の案内だったが、昨年度は保存版として作成され、全戸配布がされた。

(委員) 同様のものが藤沢市でも発行されているが、例えば子育て支援の情報ではNPO法人の情報も掲載されている。寒川町の悪いところは税金を使っているところの情報しか教えてくれない。NPO活動など認知してくれないように感じる。住民にとっては公的なものだけではなく身近ないろいろな情報が知りたいのではないか。住民の視点に立って作成していただきたいと思う。子育て支援に限らず、先ほどのスポーツ団体についても、そのような情報を載せることで協働になるのでは。

(事務局) 今回のガイドは行政に関わる情報が中心となっている。住民は行政以外の様々な情報を必要としている、というご意見でよろしいか。

(委員) そう思う。私自身もNPO活動をしているが、NPOにしていなくてもあまりメリットはないのだが、政党や宗教に偏らないこともあり、公民館活動の講師などにも依頼されている。ほぼボランティアで利益などもなく、がんばって活動しているので、こういう情報紙にも載せて欲しいし、もっと活用してほしい。

また、連番19のボランティアを活用したおはなし会を継続されるということはとてもいいことなのだが、子ども対象なのに土曜日だけなのは残念。平日にもう1日程度設けてもいいのではないか。土曜日に行っているのは幼稚園、保育園に通っている子ども達も参加できるようにだと思っただが、平日に家で子育てをしているお母さんの方がそのような場を求めているのではないかと思う。

高齢者向けの学習として環境教育を行ってはどうか。意外と高齢者は環境問題に疎い方が多い。ゴミの分別などもできない人が目に付く。お年寄りに老人会などの支援をしているとは思いますが、硬い内容の環境講座などではなくて、例えばリサイクルセンター見学などから汚れたゴミは資源にならないということを目で見て感じるのではないか。

(委員) いくつか24年度事業報告と25年度事業予定を同じ内容のまま、「行った」など過去形の文章がある。また、このような報告書に「～だと思っ」という書き方もどうなのか。

(事務局) 報告書の書き方の方法に不備があり申し訳ない。今後は気をつけたい。

(委員) 出前講座はどのような内容の依頼が多いか。

(事務局) 23年度は防災などが多かったが、24年度は老人会などからの依頼で健康に関するものが多い。

(委員) 子育て支援センターを会場に家庭教育講座を行えば、お母さん達が学習している間に子どもは保育をしてもらえると合理的だと思ったのだが、講座は生涯学習課、施設管理は子育て支援課と管轄している課が違うので実現は難しいような話を以前聞いた。今、このような時代なので連携して事業

を行うのは理想的ではないか。

- (委員) 支援センターとして開いている時間帯に講座を実施するのは、講座の出席を目的としない利用者もいるため場所を提供できないため難しい。ただし、支援センターの閉館日に子育て支援課で保育付き講座を実施している。
- (委員) そのような事例があれば、今後も連携をしてほしい。
- (委員) センターに来た方が講座に全員参加ではなく、たまたま参加する程度の、出たい部分だけであるというようなものができれば、普段の支援センターの使い方もできるし、興味のある所だけ参加するという方法もできればいいと思う。
- (委員) 昨年、南部公民館で実施した家庭教育事業の「こすもす学級」は3日間の講座でとても良い話を講師の方がしてくれたが、参加者が少なく残念だった。講演会となるとやはり少ない。3月に行ったリトミック講座となるとすぐに申し込み定員になった。トレンディなものはすぐ飛びつくが、学んで欲しいと思うような内容には反応が少なく残念。
- (委員) 子育て世代のお母さん方には自分から何かしようという意欲があまりない傾向が見られる。揃えられていて当たり前、そこからスタートする、というがあるので、講座への反応はすごく差があると思う。興味を示してくれる人もいるが、一律にというのは今とても難しい。
- (委員) だからといって、リトミックなど楽しいものだけを講座としてやるというのはどうなのか。支援センターのような場であれば、参加者が増えるのかなと考える。
- (委員) 子どもと遊ぶということがどういうことかわからない、すべて揃えられているものから遊ぶようになっていく。例えば身近な小物でも単純な遊びを作り出すことができるのに、遊びのイメージが貧困になっている。こちらで発信したいものをどこから伝えていけばいいのか悩むこともある。
- (委員) そのほか各委員の皆様もご意見いかがか。
- (委員) 生涯学習の幅広い現状にここで収拾がつくのか、選択する方も選択しきれぬのかと疑問に思う。これだけ提供しているのだから来て欲しいのだけれど、あまりにも多すぎると感じた。年齢、対象によって違うので少ないのかもしれないが、私の個人としては多すぎる印象である。
さきほどNPO法人の情報も載せてはとのことだったが、申し訳ないが私は反対に、最近NPO法人がすごく増えているので、ちゃんとした団体とそうでない団体の判別をどうするのかと思う。町からの発信のものに関しては選択はどうするのか疑問に感じる。
- (委員) それには審査が必要となる。寒川町内にそんなにたくさんNPOがありますか。
- (委員) 私が知っているのは寒川ではないが、神奈川県全体的に見ても一時期よりNPO法人は増えていると感じている。ちょっと審査が必要だと感じた。ボランティアに関わっているとそういう話を見聞きする。
- (委員) 悪い噂の方が広まりやすい。私たちの団体は一生懸命活動しているのだがなかなか広まらない。
- (委員) いろいろな団体があるので、やはり町から発信をすることに関してはどう

なのかと思う。

(委員) NPOにどのような心配があるか。

(委員) 申し訳ないが、NPOというとちゃんと認められた団体という印象を受けるが、確かにそのような団体もあるが、違う所もある。どこがとは言えないが。そういう面で疑問に感じている。

(委員) やはり全てを載せるのではなく、審査が必要だと思う。本当に町民のためにやっているかどうか。

(委員) その審査も難しいと思う。

(委員) 南部生涯学習推進員としていろいろな企画をしているが、このような事業がたくさんあるのを見て、すごいと思う。去年は年間9講座ほど、英会話やリサイクルセンターの見学など行ったのだが、比較的高齢者や中高年向けで、あまり子どものことに関わってなかった。北部の場合は子どもを集めた事業をしているが、先日情報交換をして初めて他地区のことを知った。まだ私は関わってから短いので、公民館まつりも35回もやっているのかと思った。報告を見て、たくさんやっていると思うのだが、参加者が一桁のものなどは、自分たちが企画して苦勞してやっているのに参加が少なく、いろいろな打ち合わせに時間がかかるのにもったいない。日にちや時間については土日がいい人もいれば、平日がいい人もいるので、講座を開くのは難しいと思っている。これだけたくさんのことがあるのでもっと勉強していきたい。

(委員) ほかにいかがか。

(委員) 確かに公共機関、公共施設だけでなく、いろいろな活動をしているところが町から出る案内にあればそれに越したことはないと思う反面、さきほどご指摘があったように選別が難しい問題だと感じたところもある。ひとつの方法としては、単にNPO法人という法人格だけでなく、認定NPOという税制上の優遇措置を受けられる、諸官庁の認定を受けた団体だけを載せることも考えられるが、そうするとかなり審査が厳しく、なかなか認定されない。そうすると寒川にどれだけ認定NPOが残るかと思う。

(委員) 寒川町内にはおそらく認定NPOはないと思う。

(委員) どのような審査、基準をするかの方法の一つになりうるかとは思いますが実際は難しい。今後、このような課題を受け止めながらこの問題を考えたいと思った。

(委員) 確かにこの報告には学びプランとして施策として環境事業などたくさん載っている。町として広い意味で総合施策的にやっているのかと思うのだが、担当する方は大変だと思う。收拾がつかない。環境に関する講座を開催したり、意識を高めるためのキャンペーンをしたりすることは町民に対する学びのためとわかるのだが、なぜ学びプランでゴミ減量化推進事業などがあるのかピンと来ない。

(委員) これだけたくさん事業をとりまとめているところに驚きを感じ、感心した。立場上、高校生の生徒達を目の前にして、青少年期を対象としている事業はどのようなものがあるのか、実際に中高生がどれほど参加しているのかに興味がある。
高校生がNPO法人はぐはぐの活動に参加して、得るものが多い感想や、もう一度やりたいという生徒達もいた。最近は核家族も多く、異世代と交

流する機会が減っている。いろいろな意味で子ども達や高齢者と異世代交流ができるような事業をしていただくとお互い刺激になると感じている。

(2) 平成25年度さむかわ生涯学習総合案内について

・資料3について説明

(事務局) 平成23年度に総合案内を全戸配布開始。24年度は寒川町暮らしの便利ガイド発行のため、そちらに生涯学習事業に関する情報を掲載した。25年度については総合案内を全戸配布予定。参考までに他市の事例紹介として茅ヶ崎市と小田原市のものを回覧するのでご覧いただきたい。

(委員) 小田原市のものは毎月発行のためか、ゆったりとして大変見やすい。

(委員) 講座の紹介も直近のものが出ている。立派すぎて参考にならない。

(事務局) 予算の都合上、携帯としてはA3カラー用紙1枚に両面で印刷となるので、小田原市のような印刷は難しい。総合案内は年間の案内としている。窓口配布用としては、町民大学などは個別のパンフレットを作るので、それを手にとっていただければ年間のおおよその予定はわかる。さらに詳細となると広報か各課に問い合わせとなる。

そのほか、ゆうゆう学園、出前講座、学びプラン、社会教育施設の紹介も掲載している。窓口配布だけだと手にとってもらうのは難しいが、全戸配布であると少ないが反応はあった。これまでのものは文字が多く、伝わりにくいという印象は確かにある。

(委員) 紙で作っていただくのは大変ありがたいがお金がかかる。インターネットのホームページには掲載しているのか。

(事務局) 年間のお知らせとしてはPDFで掲載している。

(委員) どちらがお金がかかるかかからないか、ということもあるが、一番近い情報がホームページですぐ入手できるようになれば見る人も多いのでは。ツイッターも始められたようだが、直近の情報を流してはどうか。月1回の案内でも見過ごしてしまう人もいる。

(事務局) 総合案内に「ホームページを見て下さい」「ツイッターを始めました」ということを記載する方法も考えられる。

(委員) 100%見てもらえるとは限らないが、ホームページで発信すると身近な情報が得られると思う。

(委員) 今の方法には賛成。紙は保管的な意味がある。ホームページがあることもお知らせしなければいけないので、紙にアドレスを大きく書くのは有効だと思う。

また、この見本には生涯学習の理念的なことが掲載されているが、このページ数の情報量を考えると別の方法で伝えればいいのではないか。こういう企画があるのでご参加ください、というような情報をPRした方がよいのでは。ある程度の冊子ならこのようなことを掲載していてもいいのだが、これしかないスペースでは無駄になってしまう。具体的な情報が欲しいと思う。

(委員) 若い人にとっては生涯学習だからと意識しないで、こういう講座があるなら参加してみようと思うのでは。以前、若い母親で自分はこういう内容のことをしたいのだがどうすればいいかという相談があったが、それを町で登録できるんだということは知られていない。利用する側もこういう料金

	<p>設定で参加ができるんだということがわかれば、子育て中だと先の見通しが立たないものにはなかなか腰が上がらないので、具体的にわかると生涯学習という硬いイメージではなく参加しやすくなるのでは。</p> <p>(委員) メニューがいろいろあるが、同じ色刷りや文字なので、例えば講座は太字にするとか、見やすいように変化させてはどうか。</p> <p>(委員) 町の広報は25年度からページが増えると聞くが、その分情報量が増えると思うので活用してはどうか。またツイッターを始めたのならフェイスブックを作った方がいいという意見もある。今はそういうソーシャルメディアを非常に活用される時代である。それほど多額の予算もかからずに情報を伝えられる。</p> <p>(事務局) 広報も発行回数が月1回になり、なかなか情報が載らないという面があった。ページも増えることで改善されれば喜ばしい。</p> <p>(委員) その他ご意見がなければ協議事項はこれで終了とする。</p> <p>6. その他 なし</p> <p>7. 閉会 菊地原委員</p>
資料	<p>1. 寒川町行政機構図 他</p> <p>2. 寒川 学びプラン 平成24年度事業報告及び平成25年度事業計画</p> <p>3. 平成24年度さむかわ生涯学習総合案内 他</p>
議事録承認委員及び 議事録確定年月日	<p>・三澤委員</p> <p>・菊地原委員</p> <p>(平成25年5月28日確定)</p>